

●三井物産環境基金助成「顔の見える地産地消の食とエネルギーづくり」活動（2019-7-2）

4月27日付け本欄で紹介しましたように、本活動は埼玉県宮代町が有する農業技術の指導施設にバイオガス化設備を設置し、地域住民（高齢者と障がい者を含む）や学生が設備を管理・運転することで、小規模なバイオマス資源の循環利用の実現を目指しています。また、メタン発酵処理の基礎知識と管理運転技術の研修等を通じてバイオガスの普及啓発を推進するとともに、関連イベントの開催を通じて、地域の農家、レストラン、消費者の顔の見える関係を創出します。2019年度から3年間の活動となります。三井物産環境基金 HP に紹介されております。

●水質分析業務担当者への講話（2019-7-2）

東北大学名誉教授であり当協会正会員の野池達也先生が、6月27、28日に、東北地方の水質分析業務担当者40名の団体への研修会が行われ、「再生可能エネルギーに関する世界の動向と福島県伊達市霊山町における復興の進展」と題する講話をおこないました。

福島第一原発事故現場の最新のDVDと、再生可能エネルギー開発の重要性と世界各国の再生可能エネルギーの取組、さらに、霊山プロジェクトの活動が、現地の方々の最も願ってこられました除染された農地での農業特産物の生産と手製の加工食品を「ほまじのわ」として販売し、完売に至りましたことの復興の進展についてなどです。

●REPA 事務局会議開催（2019-7-25）

7月25日（木）千代田図書館第一研修室にて事務局会議が開催されました。宮代PJ、インドネシア次期PJ、霊山PJの推進方法を検討しました。特に宮代PJの進捗状況のフォローは、詳細を8月9日（金）におこない、宮代町への資料のレビュー等を行いました。